

R5年度 がんのリハビリテーションチーム活動報告

医療法人 誠和会 倉敷記念病院

リハビリテーション部 がんのリハビリテーションチーム

小林亜莉沙、川田稔、清水香里、平田貴也、
藤川千賀子、水田泰博、森本隆也、山下紗也子、横関彩佳

当チームの活動目的

当チームは2018年より発足し活動をしてきた。

昨年度はデータの蓄積と分析を実施し、

当院がんリハ患者の特性や傾向を調査することとした。

今年度も継続したデータの収集とチーム内での活動報告を実施しチーム内での知識の研鑽に努めた。

活動報告

- データベースの改訂・集積
- カンファレンスのマネジメント・調整
- 勉強会開催
- 研修会への参加（生活行為向上マネジメント）

データベースの改訂・集積

- R2年度よりデータベースの集積を継続し、今年度もデータの蓄積を行っている。今後、データの解析等の研究も視野に入れて実施していく。
- さまざまな指標が増えたため、よりリハビリテーションの有効性や病棟との連携の効果が明瞭化されていくと思われる。

- 性別
- 年齢
- 要介護度
- 臓器区分
- 転移の有無
- 在院日数
- リハ治療日数
- リハ開始までの日数
- 転帰
- 入院時、退院時Performance Status (PS)
- 入院時緩和医療スケール (Palliative Performance Scale;PPS)
- 入院時改訂長谷川式簡易知能評価スケール (HDS-R)
- 入院時・退院時Functional Independence Measure (FIM)
- Functional Oral Intake Scale (FOIS)

カンファレンスのマネジメント・調整

- ・ 早期に多職種での方針決定を行うため、チームリーダーを主体にがんリハ患者のカンファレンスを調整し実施している。
- ・ 参加者は、医師・看護師・担当療法士・管理栄養士・薬剤師・ケースワーカーである。
- ・ カンファレンスでは、以下の項目を各職種で意見を述べ30分程度で検討している。

- ①病態や予後
- ②社会的背景(介護度や社会的支援の有無)
- ③服薬状況
- ④食事状況・栄養状態
- ⑤病棟での生活状況・看護的問題点・ゴール設定の共有
- ⑥リハ的問題点・ゴール設定の共有
- ⑦方針検討(チームでのアプローチ内容, 社会的サービスの検討)

勉強会の開催

- ・ 当院でのがん患者を通じて事例報告を実施

「70代女性肺腺がん患者に対し

目標を共有し自宅退院支援した一例」

告知をされており，残された時間をどこで，どのように

過ごしたいか，という内容を病態や本人の希望を踏まえて決定した症例

ディスカッションにて自分ならどう関わり，目標を設定するか？

という情報共有をする時間となった

研修会の参加

- ・ 勉強会で情報をディスカッションした症例については
実際に生活行為向上マネジメントの事例検討会にて
症例提示を実施
- ・ 当院でのがんリハ患者へのアプローチについて情報を
発信することに加えて，発表者の臨床思考過程の
成長につながる活動となった．

研修会の参加

- R6年2月時点で、当リハ部は理学療法士5名，作業療法士3名，言語聴覚士1名が がんリハ研修（厚生労働省委託事業）を修了している。
- 毎年研修会への参加を促し，メンバーの増員を行うことでがん患者へのリハビリテーションの提供と生活の質の維持・向上の更なる推進を目指している。

来年度の計画

- データの集積継続
- がんカンファレンスの早期開催
 - ⇒在宅復帰率の向上や入院期間中の患者様への
充実した関わりの提供に繋げる
- 症例検討会・勉強会の開催